

141 二階から目薬

思うようにならなくてもどかしいこと。全く、効き目のないこと。

142 逃がした魚は大きい

もう少しで手に入る、というところで逃がしたものは、実際よりも立派だったように思えるということ。

143 憎まれっ子世にはばかる

人から嫌われるような人に限って、世間では幅を利かせているものだ。

144 逃げるが勝ち

時には、戦わずに逃げる方が、結果的に得になるということ。

145 二兎を追うものは一兎をも得ず

欲張って一度に二つのことをしようとしても、結局どちらもうまくいかないということ。

146 糠に釘

手ごたえがなく効果もないこと。

147 濡れ手で粟

ほとんど苦労もせずに大もうけすることのたとえ。

148 猫に鯉節

油断できない状況。危険な状態。

149 猫に小判

価値のわからない者に貴重な品を与えても、何の役にも立たないことのたとえ。

150 能ある鷹は爪を隠す

実力や才能のある者ほど、それをおやみに見せびらかさうとはしない。

151 喉元過ぎれば熱さを忘れる

苦しく辛い出来事も、過ぎ去ってしまったえばその苦しさを忘れてしまう。

152 暖簾に腕押し

少しも手ごたえがないこと。

153 花より団子

風流を楽しむよりも実益を取る方がよいというたとえ。見かけよりも実質を取ること。

154 早起きは三文の徳

早起きをする、健康に良かったり、仕事がかどったりと、なにかとよいことがある。

155 腹八分目に医者いらす

食事を食べ過ぎずに控えめにしておけば、健康を保てるということ。

156 必要は発明の母

必要なものを作ろうと工夫することから、発明が生まれるということ。

157 人のうわさも七十五日

世間は忘れやすくだんな噂も長続きはしない。

158 人の口には戸が立てられない

世間でうわさ話が広がることを防ぐことはできないということ。

159 人のふり見てわがふり直せ

他人の行いを見て自分の行いを反省し、悪いところはなおしなさいということ。

160 人は見かけによらぬもの

人の本当の性格や実力は、外から見ただけではわからないということ。